

令和 8 年度光・量子飛躍フラッグシッププログラム (Q-LEAP) 公募 Q&A  
(高専エンジニアリング人材育成)

2026/3/12 更新

Q.1 誓約書の提出について。参加者各人に作成してもらい、代表機関がまとめて提出という形でよいか？

A1. 代表（契約）機関の誓約書のみでよい。

Q2. 課題の応募は校長が行うが、代表者が e-rad で提出するのか、事務担当者が提出するのか？ e-rad の提出はだれか。

A2. 機関の担当が提出すればよい。研究代表者は実際の委託業務に責任を持つ先生。

Q-LEAP は文科省と代表機関との契約になるので、実施機関長との契約となる。本事業ではそれが校長である位置づけ。

Q3. 公募要領にバイアウトについて書かれているが、本事業に関わらないものでもよいのか？

A3. 当該委託事業に関わるものでないと経費支出はできない。

Q4. 経費表について。分担者の分担金は再委託費となると思うが書き方はどうなるか？ 設備備品費〇〇円、という書き方か。再委託費を別途書く必要があるか。

A4. 研究開発費計画総括表にグループごとに記載いただく。研究計画表には分担者がいる場合には、分担分だけ記載。設備備品費、〇〇円のような記載とする。

Q5. 様式 5 について、設備備品費・装置の名前、などと書く必要があるか。

A5. どのようなものが必要なかわかるように、可能な範囲でよいので詳細に記載いただきたい。見積書などは不要。

Q6. 人を雇う場合に、どのように記載したらよいか。開発項目に運営などとして、人件費としたらよいか。雇う理由がわかるような記載がよいか。

A6. 雇う理由がわかるように記載。詳細な名前等は不要。

Q.7 開発要件がかなり詳細。量子技術分野は幅広い領域を対象とすると書いてあるがすべてを網羅する必要があるのか。

A7. 入っていないものがないといけないというものがあるわけではない。ただし、何か一つだけとならないようにしていただきたい。

Q8. 採択 2 件とあるが、今年度だけなのか。来年も公募があるのか。

A8. 今年度 2 件採択を予定しており、4 年間実施頂く。来年の公募は現在のところ予定していない。

Q9. 様式 6：研究開発グループ、共同研究開発グループの記載については、それぞれに対して 2 ページ上限という意味か。

A9. それぞれ 2 ページが上限。想定できる体制がわかる形で記載いただければよい。

Q10. 代表機関を高専として、代表以外の高専でも実施できるような内容と理解したが、そこが難しい。広げるために、Q-LEAP から働きかけてくれることはあるか？

A10. 事務局である文科省から、委託研究の方向性に意見することはない。

委託研究の方向性を判断するのは PD やアドバイザーである。その方々から方向性の示唆はありうる。またそのために事務局の協力が必要なことに関しては協力していく。